

マラルメ・シンポジウム 2013

マラルメは、

現在……



主催：平成 23-25 年度科学研究補助費
基盤研究 (C)

「同時代のインド学と言語学を通して見た
マラルメの言語観の形成に関する研究」

共催：慶應義塾大学教養研究センター

慶應義塾大学日吉校舎来往舎
シンポジウム・スペース

Colloque

«Aujourd'hui, Mallarme...»

■ 2010年に遂に日本語訳による『マラルメ全集』が完結した。1989年に第1回配本があったから完結までの間、日本のマラルメ研究はマラルメのさまざまな側面を、そうあのシャンデリアの切り子面のような煌めきを捉え、探求してきた。ここにマラルメ研究のこれまでの深化を改めて問う。

3月16日

開会 (9:45-10:00)

基調講演 (10:00-11:30)

竹内 信夫「マラルメとインド学」

第1分科会 マラルメと言語 (13:00-15:00)

立花 史「教育・文学・言語科学—新たなマラルメ理解に向けた三点確保」

大出 敦「マラルメの挫折、あるいは新たな出発点—『言語に関するノート』再考」

第2分科会 マラルメと詩 (15:30-18:30)

松村 悠子「マラルメと定型詩句」

永倉千夏子「〈彼女〉の婚礼—『エロディアードの婚礼』読解のために」

中畑 寛之「『アナトールの墓』の彼方へ? 「小さな記念碑」を建てるために」

3月17日

第3分科会 マラルメと芸術 (13:15-15:15)

黒木 朋興「世紀末フランス絶対音楽事情—Maurice Griveauの場合」

坂口 周輔「マラルメ—物質と想像力のあいだで」

ワークショップ (15:30-18:00)

詩と音楽の交錯点—マラルメ周辺の詩人と音楽家たち

黒木朋興／永倉千夏子／安川智子／堀 朋平

田子雅代 (ソプラノ)／川口成彦 (ピアノ)

小沼朝生 (詩朗読)

■ ワークショップ「詩と音楽の交錯点」は、音楽家によって取り上げられ、歌曲となった詩篇を対象に、文学研究と音楽研究の立場から分析を加え、詩と音楽のずれと響き合いを明らかにします。歌曲の理想的な在り方を探るとともに、詩と音楽のはざまに思いをこらし、生演奏を通じて実際の響きにも耳を傾けていただきます。



交通アクセス

・東急東横線、東急目黒線／横浜市営地下鉄グリーンライン 日吉駅下車、徒歩1分

※東急東横線の特急は日吉駅に停車しません。

※渋谷～日吉：25分 (急行約20分)

※横浜～日吉：20分 (急行約15分)

※新横浜～菊名～日吉：20分

■会終了後、簡単な懇親の席を設けます。出席希望の方は3月14日までに以下にご連絡下さい。

colloquemallarme@gmail.com